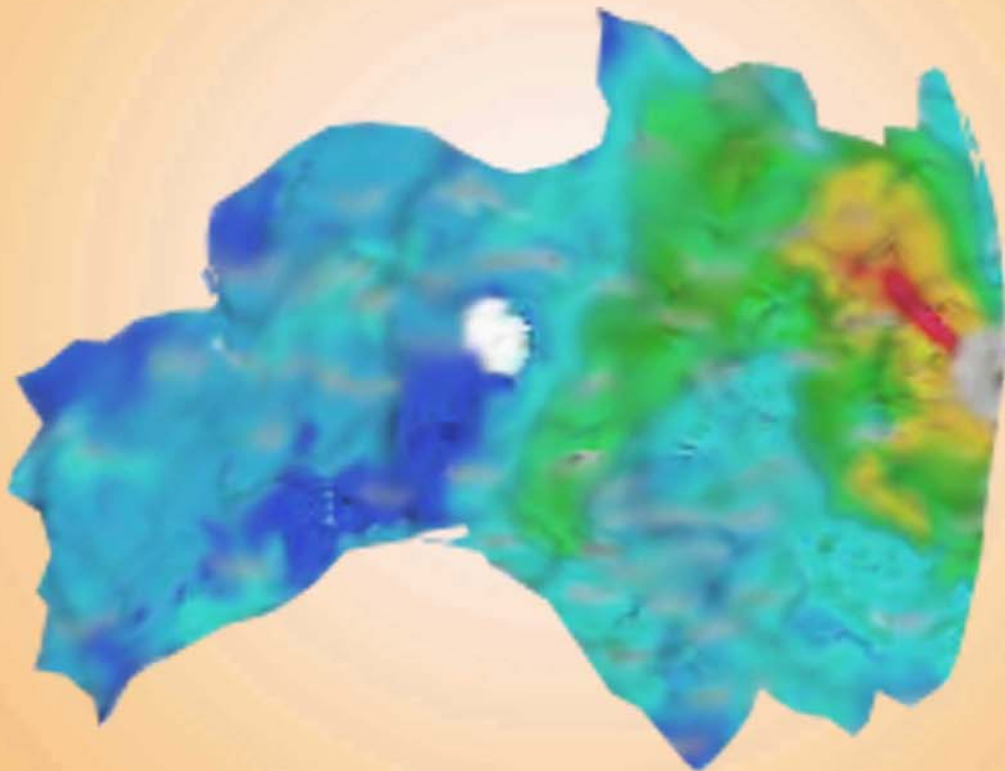


原発事故から 1 年 —福島県の汚染と被害の状況—

児玉一八



日本科学者会議

まえがき

福島第一原発事故による被害状況をこの目で確かめたいと、事故発生以来、ずっと考えていました。そうしたなかで、住民運動のリーダーで日本科学者会議会員の伊東達也さん（福島県いわき市在住）から、「石川の皆さんでぜひ、現地調査団を福島に送ってください」とのお誘いを受けたのが、2011年10月のことでした。以来、調査団を送るための話が進められ、伊東さんの「雪が融けてからがいいでしょう」のアドバイスで、春に福島にうかがうことになりました。

2012年4月10～12日、石川県から11人が事故から1年1ヵ月を経過した福島を訪れ、宮城県からの4人と合流し、伊東さんや早川篤雄さん（福島県檜葉町から、事故のためいわき市内に避難）、渡辺博之さん（いわき市議）の案内で、①4台のサーベイメータによる空間線量当量率の測定、②聞き取り調査（原発事故から1年を経て明らかになった被害状況と今後の課題、原発労働者の状況、東電・自治体などの動き、漁業被害の状況）、③いわき市から檜葉町（「警戒区域」入口）までの、原発事故・地震・津波の被害、住民の生活実態の調査一などを行いました。

空間線量率の測定は、3台のシンチレーションサーベイメータ、1台のGMサーベイメータで行いました。これだけの測定器を住民運動が準備して行った測定は、あまりないのではないかと思います。浪江町赤宇木手七郎では、3台のシンチレーションサーベイメータが振り切れてしまい、GMサーベイメータで80 μ Sv/hを記録しました。金沢の約1千倍。一同は声を失いました。

聞き取り調査では、以下のことが明らかになりました。放射能汚染は住民に深刻な分断と対立をもたらし、それは親子にも及んでいること。福島第一原発から60km圏の福島・二本松・郡山・伊達の各市では、若いお母さんたちは避難するかどうかでじりじりしており、1年経ってもパニックが続いていること。約90kmの会津若松市は修学旅行のメッカだったが、事故後、訪れる人が95%も減ったこと。福島県沖には豊かな漁場が広がっているが、放射能汚染のため漁に出ても魚が売れず、津波から命がけで守った漁船は港に係留されたままであること。

福島県は、事故当時0～18歳の子ども36万人について、甲状腺検査を生涯続けることを決めています。それほど長く、健康への不安は消えません。事故原発の廃炉には30年以上かかると考えられており、60歳以上の福島県民は、本当の意味での事故の収束を見ることなく、この世を去らざるを得ません。

福島県での調査で、目に見えない放射能汚染がいかにやっかいなものを目の当たりにしました。調査結果を多くの人びとに知らせ、原発からの撤退、自然エネルギーへの転換の運動を大きく広げたいと思っています。

原発事故から 1 年

—福島県の汚染と被害の状況—

1 現地調査団の構成と行程	3
1-1, 現地調査団の構成	3
1-2, 現地調査団の行程	4
1-3, 福井県での空間線量率測定	4
2 空間線量当量率の測定	4
2-1, 放射線測定器	4
2-2, 4月10日の測定	5
2-3, 4月11日の測定	8
2-4, 4月12日の測定	9
2-5, 4月22日福井県での測定	10
3 伊東達也さんからの聞き取り	
・福島第一原発事故から1年～明らかになったことと今後の課題	11
広範な地域に深刻な被害	11
友だちから切り離された子どもたち	12
放射能がもたらした分断, 膨大な被害額	13
日本の歴史上, 最大で最悪の公害	14
山積する困難な課題	14
すべての原発の廃炉, 福島県の作り直しの道	15
4 渡辺博之さんからの聞き取り	
・原発労働者の状況, 東電・自治体などの動きについて	15
事故直後から命がけで働く熟練労働者	15
原子炉メーカー, 東電の動き	16
原発労働での重層的下請け構造とピンハネ	16
・漁業被害の状況について	18
豊かな海が死んでしまった	18
津波の被害——命がけで船を守った	19
原発事故での漁業の自粛	20
魚介類, 海水, 海底土などの放射能検査	20
原発事故の損害賠償, その他収入	21
漁業再開の見通しは立たないが, 漁業者とともに行動し模索する	21
5 いわき市～檜葉町の調査	22
・いわき市から国道6号線を北上	22
・広野町からいわき市へ南下	24
謝 辞	27

原発問題住民運動石川県連絡センター，同能登地域連絡センター，原発を考える石川女性の会は，2012年4月10日(火)～12日(木)，原発問題福島県民連絡会のご協力のもと，11人が参加して福島第一原発事故現地調査を行いました．なお，4月10日午後と11日午前の調査は，「宮城県の原発の危険から住民の生命と財産を守る会」「原発問題住民運動宮城県連絡センター」と共同で行いました．

1 現地調査団の構成と行程

1-1 現地調査団の構成（敬称略）

① 石川県

白田秋也，飯田慈子，榎本光代，尾西洋子，種池 洋，児玉一八，磯貝和典，新井田義弘，新井田由美子，高橋成典，荒木田 肇

② 宮城県

高野 博，阿部律子，芳賀芳昭，中山 享

1-2 現地調査の行程

① 4月10日(火)

7:20 城北クリニック(石川県金沢市京町)集合．4台の放射線測定器(シンチレーションサーベイメータ3台，GMサーベイメータ1台)で空間線量当量率(以下，線量率)を測定，出発．

北陸道，磐越道でいわき市へ．有磯海SA，阿賀野川SA，阿武隈高原SAで線量率を測定したほか，カーボン測定（自動車に放射線測定器を搭載し，道沿いで放射線量を測定するのをカーボン(Carborne)測定と言います．「車」(Car)と，「乗せる」(bear)の過去分詞borneを合成した言葉です）も実施．

15:20 伊東達也さん宅(福島県いわき市平北目町)に到着．宮城県の皆さんと，①伊東達也 原発問題福島県民連絡会副代表から全般的な被害状況と課題，②渡辺博之 共産党いわき市議から下請け労働者と漁業問題の報告を聞く．

18:00 いわき駅前の「だんだん」で交流会．

「ホテル・アルファワンいわき」および「ホテル東洋」に宿泊．

② 4月11日(水)

9:00 「ホテル・アルファワンいわき」前で線量率を測定し，出発．

1号車(石川)は伊東達也さん，2号車(宮城)は早川篤雄さん(原発問題福島県民連絡会代表)から説明を聞きながら，国道6号線を北上．いわき市内，広野町内の被害状況を調査し，線量率を測定し，楡葉町の「警戒区域」入口の検問所へ．

9:40 検問所の前で早川さん，伊東さんから説明を聞き，周辺で線量率を測定．

10:00 原発事故対策作業の前線基地となっている「Jヴィレッジ」前で説明を聞く．

- 10:30 JR広野駅.
- 11:10 いわき駅前の「杜のドーナツ」で買い物.
- 12:00 いわき市役所で昼食.
- 12:50 いわき市議会委員会室で渡辺博之いわき市議からいわき市の原発事故対応について説明を聞く.
- 13:50 いわき市役所を後にし、いわきICを経ていわき中央JCTから常磐道、郡山JCTから東北道に入り、二本松ICで降りる. 二本松市を東進し、川俣町を経て浪江町に入り、北上して飯館村役場へ. この行程でカーボーンによる線量率測定を行い、高線量率であった浪江町水境、同赤宇木手七郎では車から降りて線量率を測定. 飯館村役場でも測定した. 浪江町、飯館村の状況を調査し、福島松川ICで東北道に乗り、カーボーン測定を行う.
- 20:00 郡山市に到着.「ホテル・ルートイン郡山インター」宿泊.

③ 4月12日(木)

- 8:30 「ホテル・ルートイン郡山インター」前で線量率を測定し、出発. 地元紙の「福島民報」,「福島民友」を購入し、郡山ICから東北道へ. 郡山JCTで常磐道に入り、カーボーン測定を行う.
- 9:20 猪苗代湖畔で線量率も測定.
- 10:30 鶴ヶ城(会津若松市). 阿賀野川SAで昼食, 米山SA, 小矢部川SAで休憩.
- 17:00 城北クリニック着. 解散

1-3 福井県での空間線量率測定

空間線量率測定の対照群(control)として、4月22日に福井県小浜市で行われた「再稼働許すな緊急集会 in 小浜」に参加する行程において、福井県南越前町南条から小浜市泊までの17地点で、シンチレーションサーベイメータによる測定を行いました.

2 空間線量当量率の測定

2-1 放射線測定器

以下の測定器を使用しました(図1).

- ・ GMサーベイメータTGS-121 (日立アロカ)
- ・ NaI(Tl)シンチレーションサーベイメータ TCS-172 (日立アロカ)
- ・ CsI(Tl)シンチレーションサーベイメータ PDR-101 (日立アロカ)
- ・ 同Radi PA-1000 (堀場製作所)



図1—放射線測定器. 左からPDR-101、TGS-121、TCS-172

2-2 4月10日の測定

非汚染地の対照群(control)として、金沢市(図2および表1-1～1-4のNo.1と2. 数字は以下同じ)と北陸道の有磯海SA(3), 米山SA(4)で測定しました. 地上からの高さ1mの測定で, いずれも0.05～0.07 μ Sv/hであり, 高さ30cmの測定値とほぼ同じでした.

新潟から磐越道に入り, 阿賀野川SA(5)では, 1mで0.06～0.08 μ Sv/h, 30cmで0.08～0.1 μ Sv/hで, 高さ30cmの測定値が1mより若干高く, 福島第一原発由来の放射性物質でわずかながら汚染している可能性が考えられました.

磐越国境を越えて福島県に入ると, PDR-101によるカーボン測定の数値がじりじりと上がり始め, 郡山JCT付近(6)では0.7 μ Sv/hに達しました. さらに東進すると測定値は下がっていき(7,8), 阿武隈高原SA(9)では1mで0.11～0.13 μ Sv/h, 30cmでは0.17～0.19 μ Sv/hとなりました.

福島第一原発事故現地調査団 空間線量率測定結果 (2012年4月10～12日)

原発問題住民運動石川県連絡センター
原発問題住民運動能登地域連絡センター
原発を考える石川女性の会

CsI(Tl)シンチレーションサーベイメータ
PDR-101による測定結果
0.00 μ Sv/h(斜めでない文字)は地上1m
における測定、0.00 μ Sv/h(斜めの文字)
はカーボンによる測定を示す
(29、浪江町赤宇木手七郎)はGMサーベ
イメータによる測定

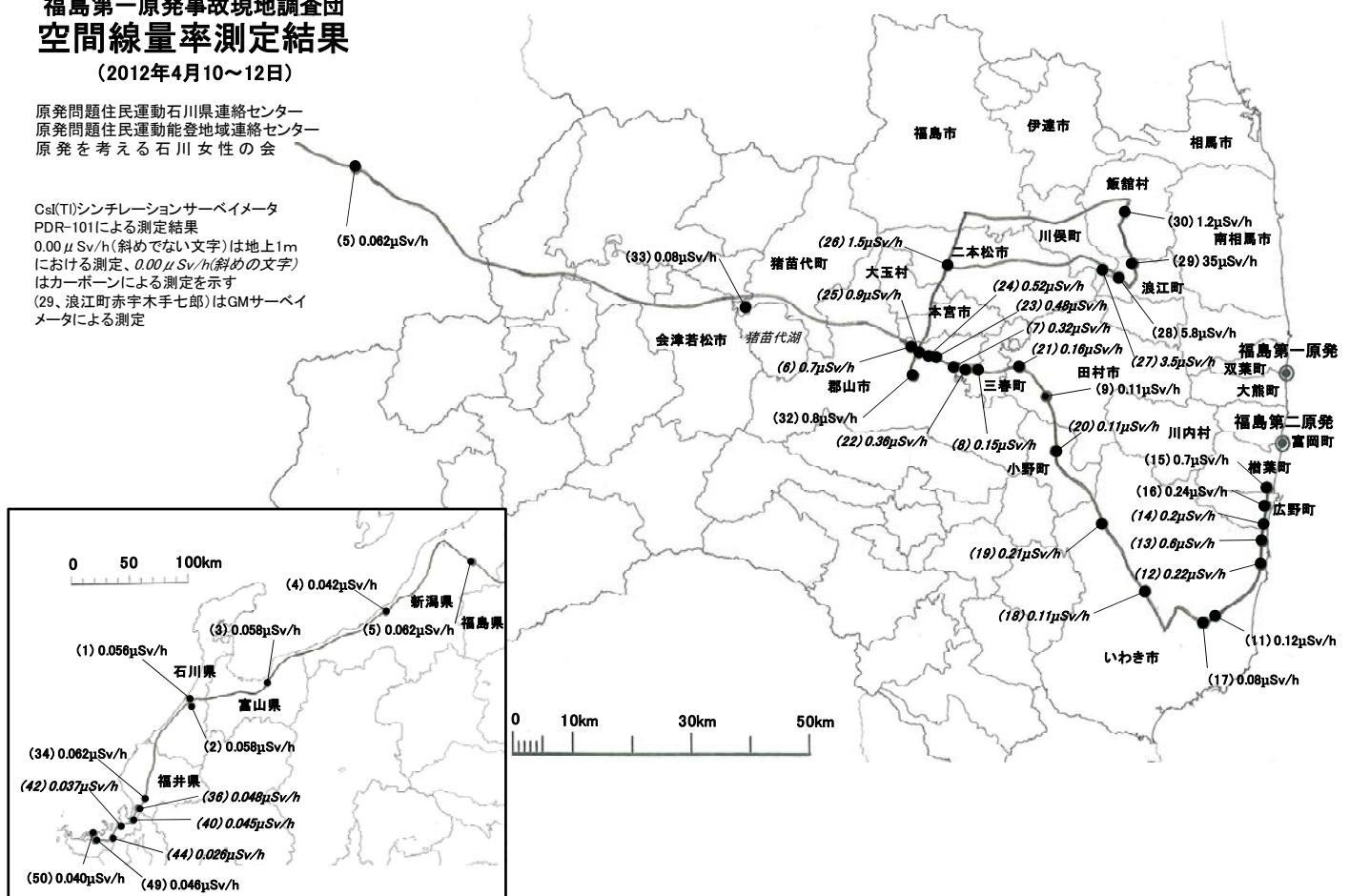


図2 空間線量率測定結果

表1-1 空間線量率測定結果

	月 日	時 刻	天 気	測定地点	GPS	高さ	測 定 器				備 考
							GM TGS-121	CsI(Tl) PDR-101	CsI(Tl) Radi	NaI(Tl) TCS-172	
1	4 月 7 日	9 時 20 分	曇	金沢市三ツ屋町ハ10番地6	N 36° 36' 37.3"	30cm	0.25 μ Sv/h	0.058 μ Sv/h	μ Sv/h	μ Sv/h	
					E136° 38' 44.9"	100cm	0.3 μ Sv/h	0.056 μ Sv/h	μ Sv/h	μ Sv/h	
2	4 月 10 日	7 時 30 分	晴	城北クリニック	N 36° 34' 58.3"	30cm	0.3 μ Sv/h	0.062 μ Sv/h	0.083 μ Sv/h	0.07 μ Sv/h	
					E136° 39' 21.4"	100cm	0.3 μ Sv/h	0.058 μ Sv/h	0.066 μ Sv/h	0.06 μ Sv/h	
3	4 月 10 日	8 時 55 分	晴	北陸道・有磯海SA	N36° 47' 29.1"	30cm	μ Sv/h	0.064 μ Sv/h	0.071 μ Sv/h	0.07 μ Sv/h	
					E137° 25' 01.4"	100cm	μ Sv/h	0.058 μ Sv/h	0.074 μ Sv/h	0.07 μ Sv/h	
4	4 月 10 日	10 時 30 分	晴	北陸道・米山SA	N37° 20' 03.4"	30cm	μ Sv/h	0.054 μ Sv/h	0.064 μ Sv/h	0.06 μ Sv/h	
					E138° 28' 18.0"	100cm	μ Sv/h	0.042 μ Sv/h	0.055 μ Sv/h	0.05 μ Sv/h	
5	4 月 10 日	12 時 35 分	晴	磐越道・阿賀野川SA	N37° 44' 07.0"	30cm	μ Sv/h	0.076 μ Sv/h	0.10 μ Sv/h	0.09 μ Sv/h	
					E139° 19' 28.3"	100cm	μ Sv/h	0.062 μ Sv/h	0.062 μ Sv/h	0.08 μ Sv/h	
6	4 月 10 日	時 分	晴	磐越道・郡山JCT付近	N° ' "	カーブーン	μ Sv/h	0.7 μ Sv/h	μ Sv/h	μ Sv/h	
					E ° ' "		μ Sv/h	μ Sv/h	μ Sv/h	μ Sv/h	
7	4 月 10 日	14 時 10 分	晴	磐越道	N37° 26' 39.0"	カーブーン	μ Sv/h	0.32 μ Sv/h	μ Sv/h	μ Sv/h	
					E140° 25' 13.4"		μ Sv/h	μ Sv/h	μ Sv/h	μ Sv/h	
8	4 月 10 日	14 時 15 分	晴	磐越道	N37° 26' 09.3"	カーブーン	μ Sv/h	0.15 μ Sv/h	μ Sv/h	μ Sv/h	
					E140° 27' 56.5"		μ Sv/h	μ Sv/h	μ Sv/h	μ Sv/h	
9	4 月 10 日	14 時 25 分	晴	磐越道・阿武隈高原SA	N37° 21' 32.4"	30cm	μ Sv/h	0.18 μ Sv/h	0.17 μ Sv/h	0.16 μ Sv/h	
					E140° 36' 30.7"	100cm	μ Sv/h	0.11 μ Sv/h	0.11 μ Sv/h	0.13 μ Sv/h	
10	4 月 11 日	7 時 50 分	曇	いわき市平字大工町6-6 ホテルアルファワンいわき 4階 403号室	N° ' "	4階	μ Sv/h	0.066 μ Sv/h	μ Sv/h	μ Sv/h	
					E ° ' "		μ Sv/h	μ Sv/h	μ Sv/h	μ Sv/h	
11	4 月 11 日	8 時 50 分	曇	ホテルアルファワンいわき 玄関前	N37° 03' 14.9"	30cm	μ Sv/h	0.17 μ Sv/h	0.19 μ Sv/h	0.17 μ Sv/h	
					E140° 54' 03.7"	100cm	μ Sv/h	0.12 μ Sv/h	0.12 μ Sv/h	0.12 μ Sv/h	

表1-2 空間線量率測定結果

	月 日	時 刻	天 気	測定地点	GPS	高さ	測 定 器				備 考
							GM TGS-121	CsI(Tl) PDR-101	CsI(Tl) Radi	NaI(Tl) TCS-172	
12	4 月 11 日	時 分	曇	いわき市・県道久ノ浜駅前	N° ' "	カーブーン	μ Sv/h	0.22 μ Sv/h	μ Sv/h	μ Sv/h	
					E ° ' "		μ Sv/h	μ Sv/h	μ Sv/h	μ Sv/h	
13	4 月 11 日	時 分	曇	いわき市・県道明不作	N37° 09' 40.5"	カーブーン	μ Sv/h	0.6 μ Sv/h	μ Sv/h	μ Sv/h	トンネルに入ると0.1 μ Sv/hくらいに下がる【PDR-101】
					E140° 59' 39.9"		μ Sv/h	μ Sv/h	μ Sv/h	μ Sv/h	
14	4 月 11 日	9 時 30 分	曇	広野町	N37° 10' 49.7"	カーブーン	μ Sv/h	0.2 μ Sv/h	μ Sv/h	μ Sv/h	
					E140° 59' 35.0"		μ Sv/h	μ Sv/h	μ Sv/h	μ Sv/h	
15	4 月 11 日	10 時 00 分	曇	榎葉町・20km検問所	N37° 14' 24.7"	5cm	μ Sv/h	0.9 μ Sv/h	μ Sv/h	0.92 μ Sv/h	山林の地表近くで2~2.5 μ Sv/h【PDR-101】
					E140° 59' 57.8"	30cm	μ Sv/h	0.7 μ Sv/h	μ Sv/h	0.75 μ Sv/h	
						100cm	μ Sv/h	0.7 μ Sv/h	μ Sv/h	0.7 μ Sv/h	
16	4 月 11 日	時 分	曇	常磐線広野駅プラットホーム	N37° 12' 22.3"	30cm	μ Sv/h	μ Sv/h	μ Sv/h	μ Sv/h	
					E140° 59' 35.0"	100cm	μ Sv/h	0.24 μ Sv/h	μ Sv/h	μ Sv/h	
17	4 月 11 日	12 時 20 分	雨	いわき市議会1階委員会室	N37° 03' 10.0"		μ Sv/h	0.08 μ Sv/h	0.084 μ Sv/h	μ Sv/h	
					E140° 52' 44.6"		μ Sv/h	μ Sv/h	μ Sv/h	μ Sv/h	
18	4 月 11 日	14 時 50 分	雨	磐越道	N37° 05' 48.2"	カーブーン	μ Sv/h	0.11 μ Sv/h	μ Sv/h	μ Sv/h	トンネル内は0.05 μ Sv/h
					E140° 46' 43.7"		μ Sv/h	μ Sv/h	μ Sv/h	μ Sv/h	
19	4 月 11 日	15 時 00 分	雨	磐越道	N37° 12' 00.8"	カーブーン	μ Sv/h	0.21 μ Sv/h	μ Sv/h	μ Sv/h	
					E140° 41' 49.8"		μ Sv/h	μ Sv/h	μ Sv/h	μ Sv/h	
20	4 月 11 日	15 時 10 分	雨	磐越道	N37° 18' 44.3"	カーブーン	μ Sv/h	0.11 μ Sv/h	μ Sv/h	μ Sv/h	
					E140° 36' 35.6"		μ Sv/h	μ Sv/h	μ Sv/h	μ Sv/h	
21	4 月 11 日	15 時 20 分	雨	磐越道	N37° 25' 39.6"	カーブーン	μ Sv/h	0.16 μ Sv/h	μ Sv/h	μ Sv/h	
					E140° 32' 58.1"		μ Sv/h	μ Sv/h	μ Sv/h	μ Sv/h	
22	4 月 11 日	15 時 25 分	雨	磐越道	N37° 26' 09.3"	カーブーン	μ Sv/h	0.36 μ Sv/h	μ Sv/h	μ Sv/h	
					E140° 27' 56.5"		μ Sv/h	μ Sv/h	μ Sv/h	μ Sv/h	

表1-3 空間線量率測定結果

	月 日	時 刻	天 気	測定地点	GPS	高さ	測 定 器				備 考
							GM TGS-121	CsI(Tl) PDR-101	CsI(Tl) Radi	NaI(Tl) TCS-172	
23	4 月 11 日	15 時 30 分	雨	磐越道	N37° 27' 33.3"	カーボン	μSv/h	0.48 μSv/h	μSv/h	μSv/h	
					E140° 22' 40.1"		μSv/h	μSv/h	μSv/h	μSv/h	
24	4 月 11 日	15 時 38 分	雨	磐越道	N37° 29' 27.0"	カーボン	μSv/h	0.52 μSv/h	μSv/h	μSv/h	
					E140° 22' 45.1"		μSv/h	μSv/h	μSv/h	μSv/h	
25	4 月 11 日	15 時 40 分頃	雨	郡山JCT付近	N37° 34' 23.7"	カーボン	μSv/h	0.63~ 0.9 μSv/h	μSv/h	μSv/h	最高値で1.2 μSv/h まで上がった【PDR-101】
					E140° 24' 04.2"		μSv/h	μSv/h	μSv/h	μSv/h	
26	4 月 11 日	時 分	雨	東北道・二本松IC手前	N° ' "	カーボン	μSv/h	μSv/h	μSv/h	μSv/h	最高値 1.5 μSv/h 【PDR-101】
					E° ' "		μSv/h	μSv/h	μSv/h	μSv/h	
27	4 月 11 日	時 分	雨	川俣町・県道62号線～国道 114号線	N° ' "	カーボン	μSv/h	μSv/h	μSv/h	12～18 μSv/hから2 μSv/hを超えるところが現れ、ついに3 μSv/hを超え、3.5 μSv/hに達した【PDR-101】	
					E° ' "		μSv/h	μSv/h	μSv/h		
28	4 月 11 日	16 時 50 分	雨	浪江町水境	N37° 34' 38.8"	5cm	μSv/h	8.9 μSv/h	μSv/h	9.1 μSv/h	枯れ草の上5cm、 10.5 μSv/h【PDR-101】
					30cm		μSv/h	7.7 μSv/h	8.6 μSv/h	8.0 μSv/h	
					100cm		μSv/h	5.8 μSv/h	6.5 μSv/h	6.0 μSv/h	
29	4 月 11 日	17 時 20 分	雨	浪江町赤宇木手七郎	N37° 35' 38.1"	15cm	80 μSv/h	20以上 μSv/h	20以上 μSv/h	μSv/h	浪江町内のカーボン で17 μSv/hに達したところあり【PDR-101】
					30cm		55 μSv/h	で測定 不能	で測定 不能	μSv/h	
					E140° 45' 15.4"	100cm	35 μSv/h	μSv/h	μSv/h	26.5 μSv/h	
30	4 月 11 日	17 時 45 分	雨	飯館村役場	N37° 40' 53.7"	30cm	μSv/h	1.2 μSv/h	1.4 μSv/h	1.1 μSv/h	
					E140° 44' 13.0"	100cm	μSv/h	1.0 μSv/h	1.3 μSv/h	1.1 μSv/h	
31	4 月 12 日	7 時 30 分	晴	郡山市東二丁目230番 ホテル ルートイン郡山IC 9階909 号室	N37° 25' 38.8"	9階	μSv/h	0.17 μSv/h	μSv/h	μSv/h	
					E140° 20' 12.0"		μSv/h	μSv/h	μSv/h	μSv/h	
32	4 月 12 日	8 時 30 分	晴	ホテルルートイン郡山IC 玄関 前の草地	N37° 25' 05.0"	5cm	μSv/h	1.3 μSv/h	1.4 μSv/h	1.3 μSv/h	
					30cm		μSv/h	1.1 μSv/h	1.3 μSv/h	1.1 μSv/h	
					100cm		μSv/h	0.8 μSv/h	1.0 μSv/h	0.65 μSv/h	
33	4 月 12 日	10 時 50 分	晴	猪苗代湖	N37° 31' 04.5"	30cm	μSv/h	0.09 μSv/h	μSv/h	μSv/h	
					E140° 02' 44.6"	100cm	μSv/h	0.08 μSv/h	μSv/h	μSv/h	

表1-4 空間線量率測定結果

	月 日	時 刻	天 気	測定地点	GPS	高さ	測 定 器				備 考
							GM TGS-121	CsI(Tl) PDR-101	CsI(Tl) Radi	CsI(Tl) TCS-172	
34	4 月 22 日	9 時 35 分	雨	北陸道・南条SA	N35° 49' 49"	カーボン	μSv/h	μSv/h	μSv/h	μSv/h	
					E136° 12' 05"	100cm	μSv/h	0.062 μSv/h	μSv/h	μSv/h	
35	4 月 22 日	9 時 47 分	雨	北陸道・敦賀トンネル	N35° 44' 44"	カーボン	μSv/h	0.082 μSv/h	μSv/h	μSv/h	
					E136° 08' 03"	100cm	μSv/h	μSv/h	μSv/h	μSv/h	
36	4 月 22 日	9 時 48 分	雨	北陸道・杉津PA	N35° 43' 58"	カーボン	μSv/h	0.048 μSv/h	μSv/h	μSv/h	
					E136° 06' 55"	100cm	μSv/h	μSv/h	μSv/h	μSv/h	
37	4 月 22 日	9 時 50 分	雨	北陸道・兼原トンネル	N35° 42' 47"	カーボン	μSv/h	0.078 μSv/h	μSv/h	μSv/h	
					E136° 06' 49"	100cm	μSv/h	μSv/h	μSv/h	μSv/h	
38	4 月 22 日	9 時 51 分	雨	北陸道・兼原トンネルを出て敦 賀方面約1km	N35° 41' 49"	カーボン	μSv/h	0.040 μSv/h	μSv/h	μSv/h	
					E136° 07' 05"	100cm	μSv/h	μSv/h	μSv/h	μSv/h	
39	4 月 22 日	9 時 52 分	雨	北陸道・越坂トンネル	N35° 39' 46"	カーボン	μSv/h	0.082 μSv/h	μSv/h	μSv/h	
					E136° 06' 37"	100cm	μSv/h	μSv/h	μSv/h	μSv/h	
40	4 月 22 日	9 時 56 分	雨	北陸道・敦賀IC	N35° 38' 50"	カーボン	μSv/h	0.045 μSv/h	μSv/h	μSv/h	
					E136° 05' 45"	100cm	μSv/h	μSv/h	μSv/h	μSv/h	
41	4 月 22 日	10 時 10 分	雨	国道27号線・美浜町木野	N35° 26' 27"	カーボン	μSv/h	0.041 μSv/h	μSv/h	μSv/h	
					E135° 56' 59"	100cm	μSv/h	μSv/h	μSv/h	μSv/h	
42	4 月 22 日	10 時 13 分	雨	国道27号線・美浜町河原市	N35° 36' 16"	カーボン	μSv/h	0.037 μSv/h	μSv/h	μSv/h	
					E135° 56' 22"	100cm	μSv/h	μSv/h	μSv/h	μSv/h	
43	4 月 22 日	10 時 35 分	雨	国道27号線・若狭町下夕中	N35° 28' 45"	カーボン	μSv/h	0.036 μSv/h	μSv/h	μSv/h	
					E135° 52' 41"	100cm	μSv/h	μSv/h	μSv/h	μSv/h	
44	4 月 22 日	10 時 36 分	雨	国道27号線・若狭町脇袋	N35° 28' 14"	カーボン	μSv/h	0.026 μSv/h	μSv/h	μSv/h	
					E135° 52' 08"	100cm	μSv/h	μSv/h	μSv/h	μSv/h	
45	4 月 22 日	10 時 45 分	雨	国道27号線・小浜市平野	N35° 28' 13"	カーボン	μSv/h	0.038 μSv/h	μSv/h	μSv/h	
					E135° 48' 34"	100cm	μSv/h	μSv/h	μSv/h	μSv/h	
46	4 月 22 日	10 時 46 分	雨	国道27号線・小浜市東市場	N35° 28' 40"	カーボン	μSv/h	0.032 μSv/h	μSv/h	μSv/h	
					E135° 47' 43"	100cm	μSv/h	μSv/h	μSv/h	μSv/h	
47	4 月 22 日	10 時 50 分	雨	国道27号線・小浜市遠敷	N35° 28' 52"	カーボン	μSv/h	0.026 μSv/h	μSv/h	μSv/h	
					E135° 46' 50"	100cm	μSv/h	μSv/h	μSv/h	μSv/h	
48	4 月 22 日	10 時 58 分	雨	国道27号線・小浜駅前	N35° 29' 32"	カーボン	μSv/h	0.035 μSv/h	μSv/h	μSv/h	
					E135° 44' 44"	100cm	μSv/h	μSv/h	μSv/h	μSv/h	
49	4 月 22 日	11 時 05 分	雨	小浜市・海浜小公園	N35° 29' 33"	カーボン	μSv/h	μSv/h	μSv/h	μSv/h	
					E135° 44' 03"	100cm	μSv/h	0.046 μSv/h	μSv/h	μSv/h	
50	4 月 22 日	13 時 05 分	雨	小浜市泊	N35° 32' 31"	カーボン	μSv/h	μSv/h	μSv/h	μSv/h	
					E135° 42' 53"	100cm	μSv/h	0.040 μSv/h	μSv/h	μSv/h	

2-3 4月11日の測定

いわき駅前の「ホテル・アルファワンいわき」の9階(10)では $0.066\mu\text{Sv/h}$ でした。同ホテルの玄関前(11)で測ると、1mで $0.12\mu\text{Sv/h}$ 、30cmで $0.17\sim 0.19\mu\text{Sv/h}$ となり、明らかに汚染していました。

いわき市から国道6号線を走り、カーボン測定を行ったところ、いわき市・久ノ浜駅前(12)で $0.2\mu\text{Sv/h}$ 、同・明不作(13)で $0.6\mu\text{Sv/h}$ 、広野町(14)で $0.2\mu\text{Sv/h}$ を記録しました。なお、明不作でトンネルに入ると約 $0.1\mu\text{Sv/h}$ に線量率が下がりました。北陸道ではトンネルに入ると線量率が若干上昇したのと、逆の結果です。

檜葉町の、福島第一原発から20kmの検問所(15,「警戒区域」の入り口)では、1mおよび30cmが $0.7\mu\text{Sv/h}$ 、地表から5cmでは $0.9\mu\text{Sv/h}$ でした。道路横の山林に入り、斜面の下草の上で測定すると、地表近くで $1.5\sim 2.5\mu\text{Sv/h}$ に上昇しました(図3)。

常磐線は、下り列車は広野駅までで運転をストップしています。広野駅のホーム(16)では、 $0.24\mu\text{Sv/h}$ でした。

いわき市に戻り、市役所1階の市議会委員会室(17)で測定すると、 $0.08\mu\text{Sv/h}$ でした。

磐越道を西進してカーボン測定すると(18~25)、いわき市付近では $0.1\mu\text{Sv/h}$ だったのが、西に行くに従って測定値が上昇し、郡山JCT付近では最大 $1.2\mu\text{Sv/h}$ に達しました。

東北道を北上すると値はさらに上昇し、二本松ICの手前(26)で $1.5\mu\text{Sv/h}$ を記録。二本松で東北道を降りて県道62号線を東に進むと、 $1.2\sim 1.8\mu\text{Sv/h}$ を示す地点が現れはじめて、川俣町(27)に入ると $2\mu\text{Sv/h}$ を超えるところが現れ、ついに $3.5\mu\text{Sv/h}$ になりました。



図3—檜葉町の検問所近くの山林での測定。
PDR-101は $1.506\mu\text{Sv/h}$ を示している



図4—浪江町水境での測定



図5—浪江町水境で測定した場所とPDR-101の表示。
 $10.86\mu\text{Sv/h}$ を示している。

国道114号線を通って浪江町に入り，水境(27)で車を降りて，道路わきの野原で測定したところ，1mで $5.8\sim 6.0\mu\text{Sv/h}$ ，30cmで $7.7\sim 8.6\mu\text{Sv/h}$ ，5cmでは $8.9\sim 9.1\mu\text{Sv/h}$ を示しました．場所を少し移すと，枯れ草の上の地表5cmで， $10.8\mu\text{Sv/h}$ を記録しました（図4，5）．

県道399号線を北上すると，線量率はさらに上昇し，カーボーン測定で $17\mu\text{Sv/h}$ を示したところで，車を止めて外に出ました．そこは，浪江町赤字木手七郎(29)でした．

CsI(Tl)サーベイメータは $19.99\mu\text{Sv/h}$ で振り切れて測定不能（図6）．NaI(Tl)サーベイメータは1mで $26.5\mu\text{Sv/h}$ を指し，30cmでは $30\mu\text{Sv/h}$ 以上で測定不能に．GMサーベイメータで測定すると，1mで $35\mu\text{Sv/h}$ ，30cmで $55\mu\text{Sv/h}$ ，15cmで $80\mu\text{Sv/h}$ に達しました．金沢の空間線量率の約1千倍です．

飯館村役場(30)では，1mで $1.0\sim 1.3\mu\text{Sv/h}$ ，30cmは $1.1\sim 1.4\mu\text{Sv/h}$ でした．福島松川ICから東北道に乗り，南下しながらカーボーン測定をすると， $0.8\mu\text{Sv/h}$ 前後の値が郡山付近までずっと続き，あまり低下しませんでした．



図6—浪江町赤字木手七郎で測定した場所とPDR-101の表示. $19.99\mu\text{Sv/h}$ で振り切れている

2-4 4月12日の測定

郡山市の「ホテル・ルートイン郡山IC」の9階(31)では $0.17\mu\text{Sv/h}$ ，ホテル前の草地(32)で測定したところ，1mは $0.7\sim 1.0\mu\text{Sv/h}$ ，30cmは $1.1\sim 1.3\mu\text{Sv/h}$ ，5cmは $1.3\sim 1.4\mu\text{Sv/h}$ でした．

郡山ICから東北道に乗り，郡山JCTで磐越道に入り，西進しながらカーボーン測定を行いました．西に走っても $0.5\mu\text{Sv/h}$ 前後からなかなか下がらず，下がり始めたのは磐梯熱海付近で，やっと $0.2\mu\text{Sv/h}$ になったと思うと，再び $0.3\mu\text{Sv/h}$ に上がったりで，猪苗代湖に近づいて $0.1\mu\text{Sv/h}$ 程度に下がってきました．猪苗代湖畔(33)で測定したところ，1mは $0.08\mu\text{Sv/h}$ ，30cmは $0.09\mu\text{Sv/h}$ でした．福島県境を越えるまで北陸での測定値（ $0.05\sim 0.07\mu\text{Sv/h}$ ）には下がらず，測定した範囲では，福島県内は濃淡はあるものの，全域に放射性物質による汚染が広がっていると考えられました．

図7は，伊東さんにいただいた福島県内の放射能汚染地図です．今回の私たちの測定で，①浪江町付近で空間線量率がきわめて高いこと，②郡山市にホットスポットがあること，③東北道に沿って汚染が広がっていること—がわかりましたが，図7とよく一致しています．

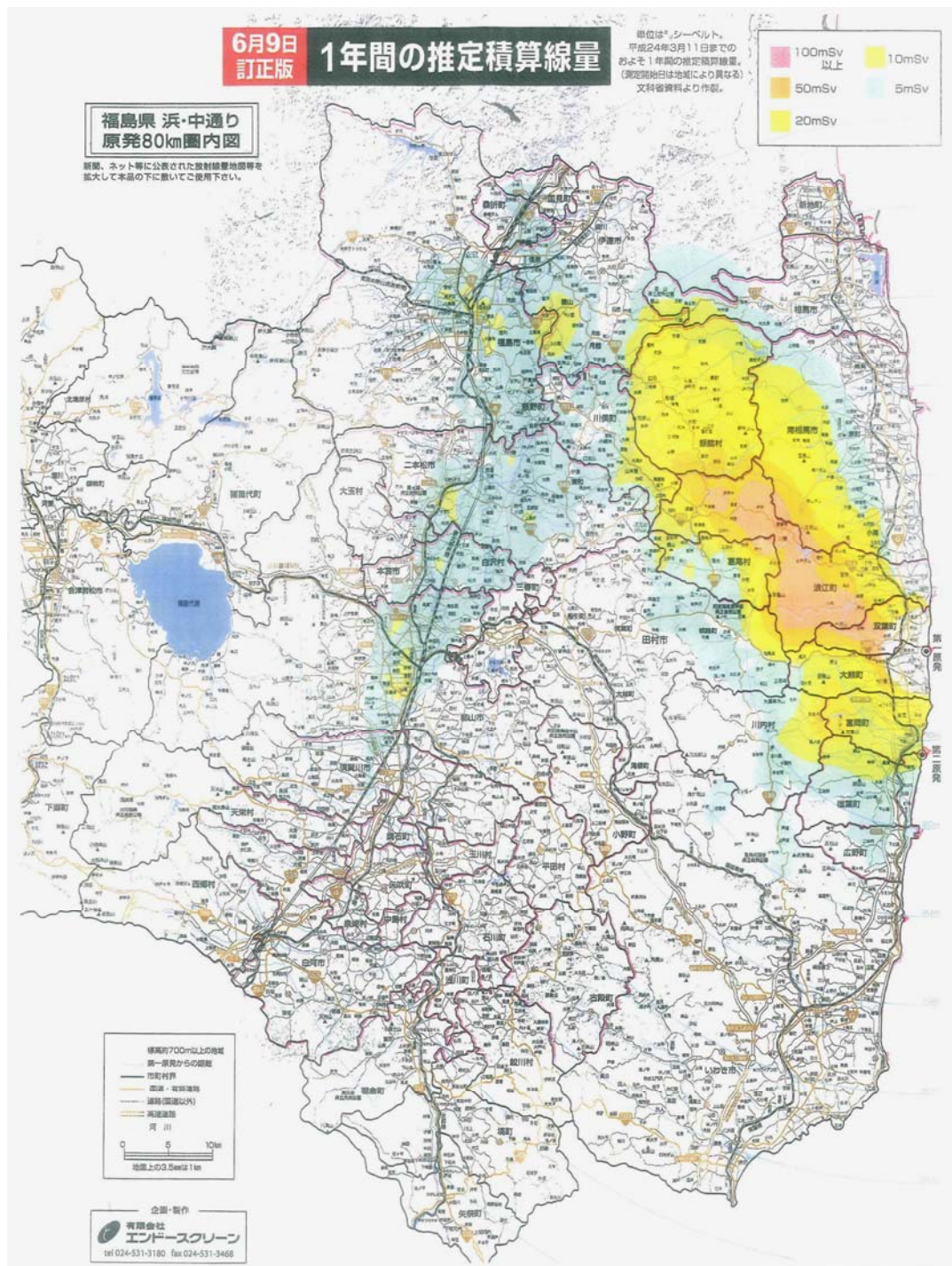


図7—福島県の放射能汚染地図(1年間の推定積算線量、2011年6月9日訂正版)

2-5 4月22日の福井県での測定

北陸道・南条SA(34)の1mでの測定では $0.062\mu\text{Sv/h}$ でした。ここから南下しながらカーボン測定を行ったところ(36,38,40), $0.04\sim 0.05\mu\text{Sv/h}$ の空間線量率を記録し、トンネル内(35,37,39)では $0.08\mu\text{Sv/h}$ に上昇しました。

敦賀ICから国道27号線に乗り、小浜市までカーボン測定を行ったところ(41～48), $0.03\sim 0.04\mu\text{Sv/h}$ でした。市内の2ヶ所(49,50)で1mの高さで測定したところ, $0.04\sim 0.05\mu\text{Sv/h}$ でした。

3 伊東達也さんからの聞き取り

福島第一原発事故から1年～明らかになったことと今後の課題

福島県は、全国で北海道、岩手県について広い県です。福島県は、太平洋側から「浜通り」、「中通り」、「会津」の三つの地域に分けられます。このうち、いわき市が含まれる「浜通り」は、雪がほとんど降らず、日照率は静岡県並みに高く、原発事故が起こるまではたいへん住みやすいところでした。

いわき市は5市4町5村が合併してできた市で、かつては日本で一番広い市でした。平成の大合併で、今は9番目の広さになっています。いわき市の最も南に位置する勿来(なこそ)地区の人たちは、合併から40年を経た今も、市役所を見たことがないという人が少なくありません。いわき市にはJRの駅が13もあります。今日、皆さんが宿泊するいわき駅前、合併前の旧平市の中心地でした。平市の人口は10万人ほどでした。30万人規模の自治体にしては、いわき駅が小さいと思われるでしょうが、10万都市の中心部だったからなのです。

皆さんのお手元に、福島県の積算線量推定マップがあります(図7)。オレンジのところは50～100mSv/年、黄色が20～50mSv/年、薄緑が10～20mSv/年、空色が5～10mSv/年です。このうち、30km圏内が「逃げろ～」となったところです。

広範な地域に深刻な被害

広野町は「屋内退避」の対象地域でしたが、町長は「みんな逃げて」と指示しました。いわき市は、久ノ浜が30km圏に入りました。「ここからここまでは室内にいて」と言われてもダメなんで、消防は「逃げろ」と言った。市と東電は、久ノ浜は「逃げろ」と言った地域と認めて、賠償するとしています。

60km圏には、福島市、二本松市、郡山市、伊達市などが入ります。全体としていわき市より線量が高く、若いお母さんたちは逃げるかどうかでじりじりしながら生活しています。1年経っても、パニックが続いているのです。石川や宮城の皆さんに、原発事故がおこったら60km離れてもこういったことになるんだと、伝えてほしい。

会津若松市は、福島第一原発から80～90kmに位置します。修学旅行のメッカだったのに、事故で95%減りました。観光課の人が「95%減った」と話したら、「えっ、5%も減ったんですか。大変ですね」と言った人がいました。5%減ったんじゃない。95%減ったんです。原発事故で、90km離れたところでも観光地はめちゃくちゃになってしまう。このことをぜひ、地元の皆さんに話してください。

明日の調査では、国道6号線を北上しながら、原発事故と津波による被害を見ていただきます。

広野町は昨年4月22日に「緊急時避難準備区域」に指定され、9月30日に解除されました。10月1日から「戻っていい」となったのですが、6ヵ月経っても、戻ってきた人は250人ほどにすぎません。基本的には「無人の町」です。もとは人口5000人ほどの町でした。日中は掃

除したりするのに戻ってくる人で400～500人ほどはいますが、夜になるといわき市の仮設住宅に帰っています。

広野町の中で議会を開いて、4月に学校も始まりました。しかし住民は戻らない。町長は、このままでは広野はなくなってしまうと不安を持っています。町民も、町がなくなってもいいとは思っていない。帰りたいとは思っています。「放射線量が低い、低いと言われても、そこに住むことは不安だ」というのが住民の気持ちです。これが放射能汚染の恐ろしさです。

昨年3月11日、福島県も大津波に襲われ、住民は避難所に逃げました。ところが次の日、さらに「逃げろ」と言われた、避難している人は、家族が全員そろっていない、欠けているのがわかっている、欠けているのがわかっているのに、避難したということが、心の中に大きなトラウマになっています。浪江町請戸では、津波から1年近くたった今年の2月、行方不明の200人以上の人たちを捜しに、町長や警察が入りました。

福島では16万人が故郷から逃げて、今もさまよい続けています。20km圏内で8万人、20km圏外で8万人と言われていています(図8、9)。

友だちから切り離された子どもたち

福島県は、“まだら”であっても放射能が降っていないところはありません。これによって、農業も教育も福祉も、大きな被害を受けました。子どもたちは、友だちから切り離されてしまいました。これが今、子どもたちの最も大きなストレスとなり、要求になっています。子どもたちはこのことを、一番言っています。ある子は「町長へのお願い」に、「友だちと別れていることを、総理大臣に伝えてほしい」と書きました。

高校の新年度が4月8日にスタートしました。原発事故で避難を余儀なくされている高校は、10校あります(表2)。県の教育委員会は4月から、サテライト校を原則1校1ヵ所に無理やり集約してしまいました。そのため、学校が遠くて通学が困難になる、新たな家族離散がうまれるなどしています。

遠距離で通えない生徒は、間借りの寄宿舍から通っています。寄宿舍といっても旅館のところもあって、一般の宿泊客といっしょで、女の子から「安全なんですか」と不安の声があがっています。安全が確保できないからと、寄宿舍に入るのをやめて転校した子もいました。

双葉高校は100年続いた学校です。ところが、新年度の入学申し込みはわずか3人でした。最終的には30人ほどが集まりましたが、みな別々の学校からやってきています。100年続いた高校も、原発事故で存続の危機におちいついています。

医療や福祉の被害も甚大です。私は浜通り医療生協の理事長をしていますが、病院でGMカウンタやベクレルモニタを購入しました。この購入費を東電に請求したら、東電の弁護士は「医者が指示したのか」と問うてくる。これが判断基準だということです。

明日、いっしょにご案内する早川篤雄さんといっしょに、社会福祉法人「希望の杜福祉会」の運営にたずさわっていますが、ここでも、福島原発事故のために障害者は2,3ヵ月ほど賃金を受けとっていません。社会福祉法人で約7千万円の損害賠償を東電に請求していますが、

東電が補償しないならば、裁判でたたかうことにしています。

放射能がもたらした分断、膨大な被害額

放射能は県民に深刻な分断をもたらしました。

放射能がおっかないと思う人は、福島に残った人に「なんでここにいる．なんでこのものを食べるんだ．あんたの考えがわからない」と言う，逃げなかった人は，逃げた人を「うらやましい」と思う，一方で逃げた人は，「みんなを置いて逃げた」という負い目がある．こうした分断が生じているのです。

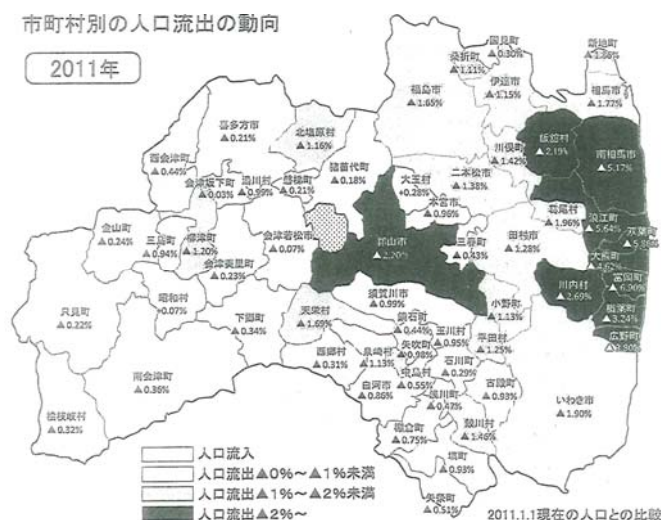


図8—福島県内の市町村別の人口流出の動向

出典：「福島民友」2012年3月10日

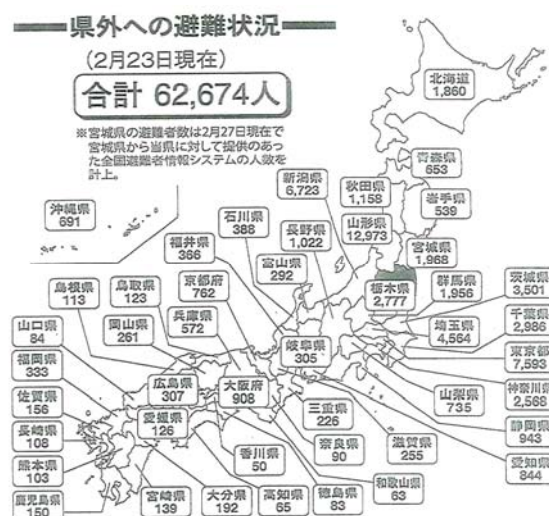


図9—福島県民の県外への避難状況

出典：「福島民友」2012年3月10日

表2—避難高校のサテライト校と生徒数の推移

出典：「しんぶん赤旗」2012年4月8日

高校名	サテライト校がある市町 (3月まで→4月から)	在籍生徒数			うち入 学予定 生徒数
		2011年 4月	2012年 2月	2012年 4月予定	
双葉	福島、郡山、会津若松、 いわき→いわき	472	196	118	16
浪江	二本松、いわき→本宮	298	152	94	7
浪江・津島校	二本松→継続	61	52	44	15
富岡	5カ所→4カ所	326	231	210	52
双葉翔陽	二本松、小野、会津坂下、 いわき→いわき	317	172	125	24
原町	相馬（2011年10月まで）、 福島→南相馬の自校	684	408	425	159
相馬農業	相馬（2011年11月まで）、 →南相馬の自校	321	232	287	114
相馬農業・飯 館校	福島→福島 別の場所	82	74	72	21
小高商業	福島、相馬→南相馬	218	152	140	39
小高工業	二本松、郡山、会津若松、 いわき、相馬→南相馬	605	390	341	116
計	3月まで26→4月から11	3,384	2,059	1,836	563

分断は親子の間にもあります。親と子が、いっしょに食事をしていても、食事は別なもの、別々の食材をとっているという現実があります。

福島にボランティアに行ったある人は、福島の農産物を食べることで支援したいと、福島の知人に「野菜を送ってほしい」と言いました。ところが、「そんな危ないこと、やめてくれ。おせっかいしないで」と言われてしまった。ボランティアに行ったこの人は、ものすごいショックを受けたと言っていました。

福島県の沿岸は約160kmあります。しかし、原発事故後の1年、まったく漁はできませんでした。福島に人が住みはじめて以来、つまり有史以来、初めてのことでないでしょうか。政府が原発のコスト計算をし直す際に、今回の被害総額を5.8兆円としました。ところが財務省幹部は、すべての損害を対象にするならば、「100兆円あっても足りない」と発言しています。そうだろうと思います。100兆円を超えても不思議ではありません。

日本の歴史上、最大で最悪の公害

政府は、20年間は戻れない地域があることを認めています。避難した住民へのアンケートでは、すでに30%近くの人々が「戻らない」と答えています。みんなが戻るということは、ありえないのではないのでしょうか。もう、元には戻らない。このことから、「復旧」とは何かという、問い直しが求められているのではないかと思います。「作り直し」を考えたほうがいいのか。これが「復興」ではないかと考えます。

事故原発の廃炉まで、30～40年とされています。現在60歳以上の福島県民は、本当の意味での事故の収束を見ることなく、この世を去らざるを得ません。

また、福島県は、事故当時の0歳から18歳までの子どもの36万人について、甲状腺検査を生涯続けることを決めています。それほど長く、健康への不安は消えません。

これだけ見ても、今回の事故が「日本の歴史上、最大で最悪の公害」であることが明らかではないのでしょうか。県の復興計画は、言葉のうえでは「人類史上体験したことがない災害」と表現しています。

山積する困難な課題

生活する地域で線量を下げるには、除染が急務です。ところが、除染する人材は素人がほとんどです。除染は福島県内で解決しないと、ほかに道すじはないだろうと思います。除染して、じゃあどこに持っていくかという、他に受け入れ先はないでしょう。原発をかかえる県で事故が起これば、石川でも同じことになります。

ホールボディカウンタはあっても、数字を読める医師がいないのです。県民は、体内の汚染を調べてもらっても、結果の数字をわたされるだけで、その意味を説明されません。これが、不安をさらに深めています。

賠償については、加害者が被害者の声をきかずに、勝手に「額」を決めるという重大な問題がおこっています。東電はいわき市民に、精神的賠償で8万円だけ支払うなどと言ってい

ます。

人権と生活を保障させることが大事であり、法律をつくらせる必要があります。政策要求を前面にした裁判も視野に入れて、たたかっていきたいと話されています。

すべての原発の廃炉，福島県の作り直しの道

福島県内にある10基の原発すべての廃炉は，多数の県民の願いとなっています。福島県の復興ビジョン検討委員会も，原発に依存しない県をめざすことを打ち出しました。福島県議会は2011年10月，新日本婦人の会が提出した「10基全部の廃炉を求めた請願」を採択し（5人は退席），知事も，廃炉をめざすと言明しました。

画期的な前進ですが，東電と政府は依然として，福島第一原発5，6号機と第二原発1～4号機を廃炉にするとは言っていません。あくまでも再開のチャンスを狙っています。

福島県は，再生可能エネルギーの研究，教育，普及などの中心地になる条件があります。同時に，かなりの長期にわたって，放射能と対峙しなければならないでしょう。そのためには，放射能や放射線の知識をもった人を，意識的に育てていかなければなりません。

原発立地地点は，負の遺産として世界遺産をめざすことも考えられます。

4 渡辺博之さんからの聞き取り

(1) 原発労働者の状況，東電・自治体などの動きについて

事故直後から命がけで働く熟練労働者

「あそこは戦場だ」と労働者は語ります。高い放射線量の中での作業。ガレキが上から落ちてくる恐怖。散乱したガレキによるケガの危険性。そして，建屋の中はヘッドライトでの作業。事故直後は熟練労働者の姿が多かったと聞きます。

3人の原発労働者から聞きました。

Aさん「自分はこれまで，原発は安全だと信じて推進する立場に立っていましたが，それは間違いでした。事故収束の作業は，誰かが犠牲になってやらなければなりません。自分は原発を動かしてきた人間として，推進してきた人間として，事故の責任があるので，死を覚悟して事故直後から福島第一原発で働いてきました」

Bさん「僕たちは，あの原発を作ってきた人間だから，事故収束の作業を誰かがやらなければならないというなら，僕たちのような年配の人間がやるのが一番いい。若い人には，できるだけ放射能を浴びる仕事はするなと言っているんです」

Cさん「使命感で仕事をしているのではない。自分の仕事だからやるんだ」と言いながら，「みんなが住んでいる地域がこれ以上汚染されないよう，空中に放出される放射能を早く減らそうと，がんばってきました」

原子炉メーカー、東電の動き

図10は、日立GEニュークリアエナジーが詰め所に掲げている横断幕です。こうした事故を起こしても、原子炉メーカーは「信頼」ではなく、「原子力事業発展」を第一に置いています。



図10—原子炉メーカーが掲げている横断幕

東電は福島第一原発5・6号機と第二原発1～4号機の再稼働をあきらめていません。原発労働者から、「第二原発は、稼働のための施設も修理しており、東電は再稼働をあきらめていないようだ」との話を聞きました。

いわき市議会の東日本大震災復興特別委員会で、私は東電に対して、「福島第一原発5・6号機と第二原発の廃止に向けた考え方はあるのか」と質したところ、東電は「福島第一原発5・6号機と第二原発は安定した冷温停止状態にあり、地震・津波の被害状況を把握するために点検・調査を実施しているが、今後の扱いについて申し上げる段階にはなく『未定』である」と答弁しています。

報道によれば、「原子力安全・保安院は3月19日、4月20日に運転開始から30年を迎える福島第二原発1号機について、東電が提出した今後10年間の運転管理方針を認める審査書案を専門家会合で示した」（朝日：2012年3月20日）とされます。

福島県議会、いわき市議会では、福島原発の廃炉を求める決議がなかなかされないという状況があります。

福島県議会では、2011年10月に「県内すべての原発の廃炉を求める請願」が常任委員会で賛否同数となり、委員長判断で不採択。県議選の直前となる議会最終日の本会議で、自民・民主など5人が退場し、やっと採択されました。

いわき市議会では、「福島原発の廃炉を求める意見書」が2011年6、9、12月と2012年3月議会の四度、自民党や東北電力出身議員などが賛成しないために可決されていません。

また、「朝日」は再稼働を主張する記事を大きく掲載（2012年3月2日）したり、地元紙がコラムで再稼働を主張する（「福島民報」2012年3月7日）など、事故から1年が過ぎてマスコミが手のひらを返すように対応を変えてきている状況もあります。

再稼働すれば、①住民は事故の不安をかかえながら生活することになる、②風評被害がなかなかなくなる、③「再生可能エネルギーの導入を推進し、原子力発電に依存しない社会を目指す復興」（いわき市復興ビジョンの理念）ができなくなる、④現在停止中の全国の原発の稼働を許し、輸出を促進する一などの問題が危惧されます。

住民の力で、福島原発の10基すべてを廃炉にするよう、運動を推進していかなければなりません。

原発労働での重層的下請け構造とピンハネ

原発労働の現場では、違法な多重派遣が常態化しています。3人の事例を紹介します(図11

～13).

Dさん

ITを中心としたP社に就職し、突然東海原発に行かされたDさん(18歳)は、E社の従業員として働かされました。E社名が書かれているネームプレートや作業服を着用し、社員証はP社のほかにU社のものを持たされました。

賃金明細書で支給会社となっているのはP社ですが、放射線管理手帳に記載されている勤務先はE社となっています。また、毎月報告する作業月報はE社の作業員として(株)日立GEニュークリアエナジーに報告し、その他U社やS社にも作業月報を提出しています。Dさんが仕事をやめたいというと、P社の社長は「損害賠償を請求するぞ。ホールボディカウンタを受けないと全国に指名手配されるぞ」と脅しました。

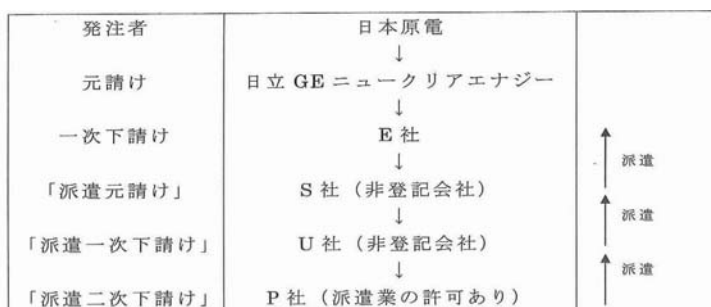


図11—Dさんの派遣の構造

Eさん

M社に雇われて2011年7月から福島第一原発で働いていたEさん(40代)は、別の会社の労働者とともにN社従業員の指示のもとで働きました。

賃金明細書で支給会社となっているのはM社ですが、放射線管理手帳に記載されている勤務先はY社となっています。

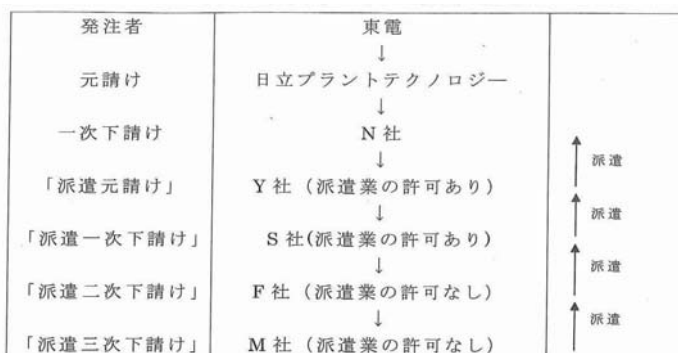


図12—Eさんの派遣の構造

TBS「報道特集」でY社の経営者は、S社から派遣されたEさんをN社に派遣し、多重派遣であることを認めたとうえで、「そうしないと仕事が取れない。全国どこでも、みんなやっている」と証言しています。

Fさん

Fさんは、H派遣会社に雇用され、各地の原発で働いてきました。FさんはH派遣会社からD派遣会社へ、さらに三次下請けのS社に派遣されました。さらにS社から二次下請けのT社に出向。さらに一次下請けのC社に出向になり、二次下請け会社の管理監督

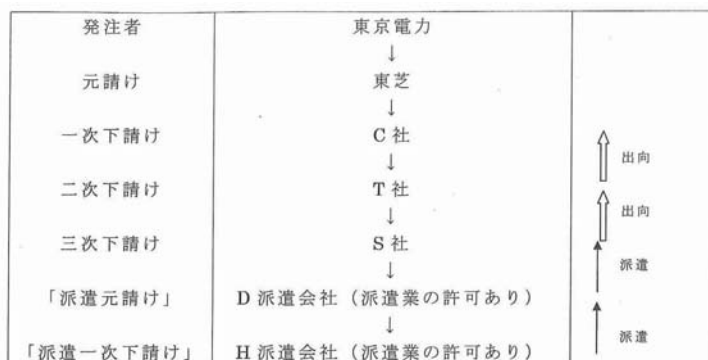


図13—Fさんの派遣の構造

業務を行いました。

Fさんの賃金明細書で支給会社になっているのはH派遣会社ですが、放射線管理手帳に記載されている勤務先はS社で、タイムカードの会社名は二次下請けのT社となっています。

二次下請けのC社がFさんの賃金分として約60万円をH社に支払っていましたが、H社から実際に支給されたのは20数万円。その差額がすべてピンハネされていたことになります。

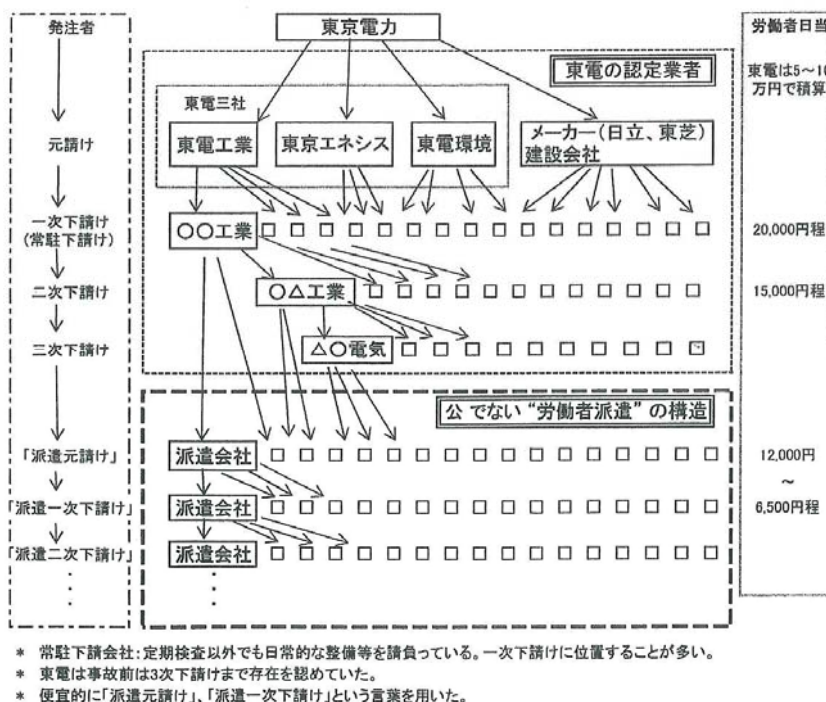


図14—定期検査などの下請け構造

また、FさんはD派遣会社の

指示で、上位会社に仕事をもらいにたびたび行かされました。「いくらでもらってきますか」と聞くと、「イチハチ (1万8千円)」とか「イチロク (1万6千円)」と言われ、工事期間と作業員の日当だけが書いてある請負契約書をもらってきました。上位の会社は、口頭に必要な作業員数を伝え、D派遣会社は作業員の名前と経歴などが書かれている資料を提示し、上位会社はその資料を見て、ほしい作業員を指名したといいます。

図14は、定期検査などでの下請け構造の概略を示しています。

こうした下請け構造には、①違法な多重派遣で中間搾取、危険手当もピンハネ、②派遣先からさらに上位会社へ出向。電力会社や元請けなどでも、現場がわかる労働者は少ない、③労働条件が悪いため、事故収束に必要な熟練労働者が集まらない、④事故収束のための作業も経費削減、⑤その他（暴力団の介入、労災隠し・トラブル隠し、箝口令など）— の問題点があります。

(2) 漁業被害の状況について

豊かな海が死んでしまった

「死んでから、あの世で先祖にあわせる顔がない」……親の代から漁業をしてきたいわき市漁協の矢吹正一組合長は、『太平洋銀行』はがんばればいくらでもお金を出してくれたが、今は原発に死の海にされてしまった」と嘆きます。あの津波の中でもほとんどの漁業者は、子どものように大事にしている漁船を守るために沖合に避難させたため、多くは無事でした。しかし、放射能汚染で漁に出られず、原発事故は漁師の誇りまで奪ってしまいました。

本来であれば、9月からは底曳網漁業が始まり、市場にはメヒカリ、ヤナギガレイ、ヒラ

メなどが並び、最も活気づいている時期です。漁業者は、「魚は湧いてくる」とも言います。

底曳網漁業は9月から始まり、6月に終わります。最後の月である6月には魚が減ってきますが、2ヵ月休むとまた魚が増えます。20年近く前、私が県職員だった頃、四倉沖でホッキガイの潜水調査をしたことがありました。例年は、新しく生まれた砂利ほどの大きさのホッキガイは1m²当たり0.01～数個の密度ですが、大量に発生したその年は、砂の中に何層にも重なり、指が砂に入らないほどで、密度は8000個／m²でした。私は、「湧いてくる」豊かな海とはこういうものなのだと実感しました。しかし、今、その海で漁ができない、まさに海は死んだ状態になっています。

津波の被害——命がけで船を守った

私は、津波の後に港を見てまわり、予想以上に漁船が残っていたことに涙が出るほどうれしくなった。水深が深い沖合では波高は小さいので、地震直後に多くの漁業者が漁船を沖合に避難させたからです。一般の人は、海岸付近から内陸に避難してくるなか、漁業者は漁船を守るために海岸に向かって車を走らせたのでした。

いわきでは、沖合1kmまで行くと、ほとんど津波は感じなかったと聞きます。一方、遠浅の相馬地区では、沖合10kmまで避難する途中、映画に出てくるような津波に遭遇して、『『ここで死んでられっか』と乗り越えていった。でも、後ろを見ると仲間の船が何隻か消えていった。助けたくても助けられなかった』などと話す漁業者もいました。

沖合に避難させることができなかったある漁業者は、いったん陸に打ち上げられた後、沖合に流されて漂流していました。それを仲間の漁業者がを見つけ、自分の船に縛り付け、息子に乗り移らせて、船底に穴が開いて浸水してくる水をかき出しながら一晩過ごし、港に帰ってきました。傷だらけになりながらも帰ってきた漁船を見て、持ち主の漁業者はどれだけ喜んだことでしょう。

ところが、命がけで守った漁船が活用されず、港に係留されています。ウニやアワビの潜水漁業で用いる小型の漁船を除けば（ウニ、アワビの漁場は岸からすぐ近くなので、泳いでいくこともできる）、県北部で3割、県南部のいわき市で7割程度の漁船が無事でした。

いわき市漁協の矢吹組合長は、「津波だけなら、残った船や施設を活用して、3日後には漁業を再開できたはずだ」と語ります。

漁協の施設も大きな被害を受け、建物だけでなく、ポンプや活魚施設、船着き場なども破壊されました。また、海岸近くの仲買人や加工業者も甚大な被害を受けました。水産業の復興は、魚をとる漁業者だけでなく、関連する仲買人・加工業者、製氷業者なども一体となって復興させる必要があります。

漁協や漁業者に対しては、漁船や施設、漁具などの消耗品に対しても、経費の3分の2を国や県が補助する制度がありますが、仲買人などの業者にはそれに比べて支援が少なく、充実が求められます。

原発事故での漁業の自粛

2011年4月4日，“低レベル”放射性廃液1万トンが海へ放出されましたが，1時間前に漁連にファックスが送られてきただけ．その後もピットから高濃度の放射性廃液が流れ続けました．漁業者は，自分たちの仕事場である海が，放射性廃液の捨て場にされてしまった，と怒りを爆発させていました．

一方，福島県漁連は4月7日，当面の間，操業を自粛することを発表し，現在もそれは続いています．海にはほとんど船が見当たらない，“死の海”になってしまいました．

魚介類，海水，海底土などの放射能検査

茨城県が2011年4月4日から，コウナゴなどの放射能検査を実施してきました．しかし行政などは，操業を自粛しているので福島県海域の魚介類が消費者に出回る心配がないこと，検査体制が整っていないこと，検査で高い数値が検出されると漁業再開後の風評被害が大きくなることなどを理由に，検査に消極的でした．

しかし，ほとんどの漁業者は，自分たちの魚がどんな状態になっているのか知りたいと，検査を福島県に要求してきました．漁業者はついにしびれを切らし，自主的にサンプリングして県水産試験場に持ち込み，放射能検査をさせました．私も，検査すべきだという立場で県などに働きかけましたが，頭に血がのぼっている漁業者が私にひっきりなしに電話をかけ，時には「何回かけても話し中だけど，何やってんだ！」などと怒られることもたびたびでした．

その後も，漁業者の要求により，さまざまな魚種で週1回の検査を実施するようになりました．

県水産試験場長は，「国が行い，迅速に情報開示をすることが信頼につながると信じる」「沿岸の海水は，年間をとおして岸沿いに南に向かって流れている．このことは常識だ．だから，原発から出た放射性廃液は沖合に拡散するのではなく，岸沿いに南に向かって流れたはずだ」と言います．しかし，文部科学省は，当初，沿岸ではなく沖合の海水を検査しています．文部科学省は本当に検査する気があったのか，疑われます．

県水産試験場長の書簡抜粋

調査が容易である陸上と比べ，「海はどうなっているのか？」という国民・消費者の不安は，「海洋生物を含めてどうなっているのか？」という不安です．海水中と魚介類可食部における放射性物質の数値の広報だけではその不安は払しょくされず，「安全」であっても「安心」は得られないことから，風評被害は続くことを懸念します．

また，後になってから「原子力発電所からの放射性物質は，海洋生物にどのような影響をもたらしたか？」という疑問は，諸外国から問われることも十分に考えられます．

海水中の放射性物質が海洋生物にどのように蓄積されているかについて，できる限りの調査を継続して行い，なぜ魚介類から高濃度の放射性物質が検出されたのか，その魚介類

の生息環境は今どうなっているのか、などについて国民にすべて広報することで、「安全」な魚介類が「安心」して消費される状況を作る必要があると考えます。

これらのモニタリングを国が行い、国内外に対して迅速に情報開示することが、魚介類の安全性に対する国民の信頼につながるものと信じます。

原発事故の損害賠償、その他の収入

漁業者は、原発事故で漁業ができなくなり、その賠償金の一部を仮払いとして東京電力から毎月受け取っています。最初に賠償金が払われたのは2011年6月で、それまでまったく収入がなく大問題になっていましたが、その後、5年間の平均（最高と最低を除く3年間の平均）の約8割を賠償額として、仮払いとしてその半分为毎月支払われるようになりました。11月には残額が一括で支払われ、その後はおよそ3ヵ月に1回、本払いされるようになりました。

漁業者の収入は、原発事故損害賠償のほか、漁獲共済の支払いが1年間行われています。さらに、水産庁の事業であるガレキの撤去作業を共同で行い、副収入を得ています。これは共同体を維持するうえで非常に大切になっていますが、ガレキそのものがなくなってきており、新たな事業を考える必要があると思います。

漁業を再開する場合には、これらの収入が途絶える一方で、漁業に必要な燃料などの経費もかかるようになります。風評被害で魚介類の価格が安ければ、その経費さえ払えなくなるおそれがあります。

2011年8月29日には、宮城県沖約900kmで漁獲したカツオが小名浜港に18トン水揚げされました。水揚げされた魚は福島産と表示されるため、風評被害を恐れて、これまで水揚げされてきませんでしたが、小名浜に活気を取り戻したい、とにかく足を踏み出したいと、第22寿和丸は水揚げしました。

ところが、築地市場でそのカツオが、1kg当たりたったの100円となってしまいました。このような損失が、ただちに賠償・補てんされるようにならないければ、漁業再開は難しいと思います。

漁業再開の見通しは立たないが、漁業者とともに行動し模索する

いつ漁業が再開できるのか、再開しても魚は売れるのか、漁業者や仲買人は大きな不安を抱え、再開をあきらめる人も出てきています。

現在、漁業関係者の意欲を維持していくことが最大の課題になっています。きめ細やかな放射能検査で見通しを立てること、行政としても、漁業をなんとしても再開させるという強いメッセージを送り支援すること、さらに、消費者もそれを応援することが求められています。

東京・日比谷音楽堂で2011年8月12日、福島県農林漁業者総決起集会が行われ、私も参加してきました。帰りのバスの中で矢吹組合長は、「今は漁はできませんが、必ず再開するという強い意志を持ってがんばりましょう」とあいさつしました。

2012年1月末、私は漁業者2人と東京海洋大学の先生といっしょに、公害問題の先進地である水俣市漁業協同組合に行ってきました。

熊本県は1997年に水俣の魚の安全宣言を出し、漁業はその3年後、2000年に再開しました。ところが、10年以上たった今でも、底魚などの値段は相場の6割程度にとどまっているといいます。魚の産地名は水俣ではなく不知火としていますが、やはり安くなってしまう。しかも、そのことに対する損害賠償は、今は払われていないということでした。

私は、3月3日には、漁業者や東京海洋大学の教授たちの総勢12人で東京都中央卸売市場築地市場に行き、卸売業者や小売業者から話を聞いてきました。

スーパーでは売り場担当者が、女性客から産地の問い合わせが殺到して仕事にならない、そのため、宮城県から千葉県産のものは扱わないケースが多いと言っていました。消費者は放射線量よりも産地名に敏感になっており、「福島」などの名前があれば線量がゼロであってもダメだということでした。

ある漁業者は、「がっかりしたけど、現実を見なければならない。避けて通ることはできない」、別の漁業者は、「息子は漁業を継いでいる。このまま終わるわけにはいかない」と話していました。

県は、スーパーなどに直接出向き、放射能検査体制などについて詳しい説明などをして、良い感触も得ているそうです。

「漁業は再開したいが、安全な魚を消費者に届けるのが自分たちの仕事」という漁業者の誇りこそが、福島県漁業のブランドになっていくのではないかと思います。

5 いわき市～櫛葉町の調査

いわき市から国道6号線を北上

4月11日午前9時にいわき駅前を出発し、伊東達也さんの説明を聞きながら国道6号線を北上しました。

いわき市平の海沿いを走る国道6号線は、津波の後1週間は、まったく車も通らない“死の町”と化しました。道路わきに「民宿よこ川荘」の看板が立っていますが、ここは1階が津波で流され、2階と3階が残っています。道路際のあちこちに、津波で壊された建物が見えます（図16）。

昨年夏、いわき市内のガソリンスタンドで「原発の作業帰りの車がスタンドで洗車していく。放射線を測ってくれないか」と頼まれて、ピットを測ってみると、7～8 μ Sv/hありました。国道6号線の海側の松林では、今でも1 μ Sv/hのところがあります。



図15—国道6号線周辺の被害状況を説明する
伊東さん

四倉では、津波で乗り上げた大きな船が道をふさぎました。いわき市のあたりの海はすぐに深くなるため、7割の漁船が津波から生き残りましたが、北部の相馬のあたりは遠浅のため、7割の漁船が失われてしまいました。

久ノ浜では、津波に襲われた常磐線の列車が、6ヵ月も置かれたままになっていました。このあたりの空間線量率は0.3 μ Sv/h前後ですが、車を走らせると線量計の数値が上下に揺れ動きます。まだら状に汚染しているようです。

広野町に入りました。

福島原発事故にともなう避難区域は、2012年3月31日までは表3のとおりでしたが、4月1日に表4のように見直されました。

広野町は「緊急時避難準備区域」でしたが、2011年9月30日に解除されました。10月1日から「戻っていい」となったのですが、6か月経っても、戻ってきた人は250人ほどにすぎません。

住宅に洗濯物がまったく干されていないのがわかると思いますが、住民は戻っていないのです。昼は広野の家に掃除などで来る人もいますが、夜はいわき市の仮設住宅に帰っています。

檜葉町に入り、福島第一原発から20kmの「警戒区域」の検問所に着きました（図17）。ここから北には行けません。検問所の交差点を左にまがってすぐに、社会福祉法人「希望の杜福祉会」の豆腐製造所があるのですが、原発事故のために、豆腐は作れなくなりました。

Jヴィレッジに着きました。検問所のすぐ近くで、檜葉町と広野町にまたがっています。ここは11面の天然芝ピッチがある広大なもので、福島県や東電などが130億円を出して作ったものです。なでしこリーグのTEPCOマリーゼのホームスタジアムにもなっていますが、



図16—国道6号線沿いの津波で全壊した家

表3—福島原発事故に伴う12年3月31日までの避難区域

計画的避難区域	事故後1年間の積算線量が20mSv以上になると予想される区域	葛尾村、浪江町の警戒区域を除いた全域、飯館村全域、南相馬市の警戒区域を除いた一部、川俣町の一部
緊急時避難準備区域	上記外の第一原発から半径20km以上30km以内などで緊急時に避難が求められる区域（4月22日指定、9月30日解除）	なし
特定避難勧奨地点	警戒区域・計画的避難区域外で事故後1年間の積算線量が20mSv以上になると予想される地点が地域内に含まれる区域	南相馬市、伊達市、川内村のそれぞれ一部

表4—福島原発事故に伴う12年4月1日から区域設定

帰還困難区域	年50mSv以上	生活可能とされる20mSvを下回るまで5年以上が見込まれる地域。政府が不動産の買い上げを検討
居住制限区域	年20～50mSv程度	生活可能とされる20mSvを下回るまで数年程度が見込まれる地域。一時帰宅は可。除染で線量が下がれば帰還可能
避難指示解除準備区域	年20mSv未満	早期帰還に向けた除染、都市基盤復旧、雇用対策などを早急に行い、生活環境が整えば、順次指定を解除する区域

原発事故以降、スポーツ施設は全面閉鎖して、国が管理する原発事故の対応拠点になっています。たくさんの重機や車両などが並んでいるのが見えます(図18)。

いわき市などの宿泊所から毎朝、作業員がJヴィリッジにいったん立ち寄ってから原発に向かい、帰りはJヴィリッジで除染などをして、それから宿舎に戻っています。

広野町からいわき市へ南下

常磐線の広野駅に着きました。下りはここで運行を停止しています。ホームから線路を見ると、列車が来ている側はレールが光っていますが、走っていない側は赤さびで覆われています(図19)。駅から海側は、津波で家が流されてしまっています(図20)。

住民は津波が襲った3月11日、高台に避難しました。ところが翌12日、原発事故でさらに「逃げろ」となった。住民の皆さんは、「津波だけだったら、こんなことにはならなかった」と言っています。広野の小学校・中学校は、児童・生徒は2割くらいしか戻ってきていません。

道を南に下って、いわき市の海沿いに戻ってきました。たくさんの家が、津波で持っていかれたままになっています(図21)。塩屋崎では、津波は南から襲ったようです。美空ひばりの歌碑と店1軒だけを残して、後はすべて失われました。



図20—広野駅から海側を望む



図17—楢葉町の「警戒区域」入口の検問所



図18—重機などが立ち並ぶ「Jヴィリッジ」

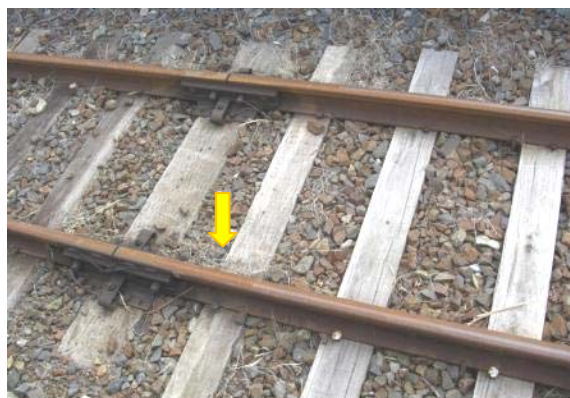


図19—広野駅の常磐線線路。↓から右側は光っているが、左側は赤さびで覆われている



図21—いわき市の海岸沿い

いわき市役所に行く前に、駅の近くの「杜のどーナつ」（図22，23）の店にちょっとだけ寄ってください。ここは社会福祉法人「希望の杜福祉会」でやっています。おからドーナツも販売しています。2012年5月までは、震災前的大豆を使っています。6月からは、震災の後に収穫した大豆を使うことになります。2012年4月1日から、食品の新しい規制値は100Bq/kgになりましたが、ここで売のおからドーナツは20Bq/kg以下であることを確認して売ります。しかし、お客さんに売の時の反応がどうか、心配しています。たとえ20Bq/kg以下であつても、「買わない」という人がいるのではないかと。原発事故で避難し、さまざまな困難を味わった障害者の皆さんが、「一所懸命作っても売れない」と、ふたたびショックを受けるのではないかと心配しています。



図22—「杜のどーナつ」のお店



図23—「杜のどーナつ」で買い物をする皆さん

いわき市の人口は約34万人で、震度は6弱でした。市役所の入り口の階段も揺れでずれてしまい、踏み段をかませて高さを調整しています（図24）。

原発事故の影響で約7000人が市外に避難し、約2万3000人が他自治体からいわき市に避難し、原発労働者が2～3000人増えました。差し引きで約1万8000人の人口増で、にわか景気に沸いています。しかし、一時的なものにすぎません。

一方、原発から約60kmの郡山市は人口約31万人でしたが、ホットスポットになっているため、1万5000から1万6000人の社会減になっています。

福島第一原発事故のため、強制避難区域に全部または一部入った市町村は、表5のとおりです。



図24—市役所の入り口の階段。地震動でずれてしまい、踏み段(⇒)をかませて高さを調整している

表5—強制避難区域に全部、一部入った市町村

市町村名	人口	世帯数		仮役場	
南相馬市	70,878	23,640	一 部		
〈相馬郡〉					
飯 館 村	6,209	1,734	全 部	福島市	
〈双葉郡〉					
葛 尾 村	1,531	470	全 部	三春町	
浪 江 町	20,905	7,176	全 部	二本松市	
双 葉 町	6,932	2,393	全 部	埼玉県加須市	第一原発 立地町
大 熊 町	11,515	3,955	全 部	会津若松市	
川 内 村	2,820	950	全 部	郡山市	
富 岡 町	16,001	6,141	全 部	郡山市	第二原発 立地町
檜 葉 町	7,700	2,576	全 部	会津美里町 →いわき市	
広 野 町	5,418	1,810	全 部	小野町 →いわき市	
伊 達 市			一 部		
川 俣 町			一 部		
田 村 市			一 部		
いわき市			一 部 30km圏内		

謝 辞

ご多忙のなか，また福島第一原発事故のために困難な毎日を送られているなか，調査にご協力くださった伊東達也さん，早川篤雄さん，渡辺博之さんに心からお礼を申し上げます．



福島の早川篤雄さん(左端)と石川、宮城の皆さん
(20km検問所の手前で)

著者のプロフィール

著者：児玉一八（こだま・かずや）

1960年生まれ

専門：生物化学，医学博士

原発問題住民運動全国連絡センター代表委員

核・エネルギー問題情報センター理事

2012年8月10日

日本科学者会議 JSA e マガジン編集委員会

The Japan Scientists' Association (JSA)

